

令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

アレルギー疾患医療拠点病院として 厚生労働省 モデル事業公募

令和7年度は全国の都道府県アレルギー疾患医療拠点病院のうち、8か所が採択

令和5年度より3回目の採択(3年連続採択されたのは、当院と三重病院、山口大学附属病院のみ)

免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 令和7年度の採択結果について

- 免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業公募要領に基づき、10か所の都道府県アレルギー疾患医療拠点病院等からの応募があり、医療機関から提出された事業計画書等について、本事業に関する審査委員会による書面審査を行い、以下の医療機関を採択した。

No	都道府県	拠点病院名
1	栃木県	獨協医科大学病院
2	愛知県	<u>藤田医科大学ばんだね病院</u>
3	三重県	国立病院機構三重病院
4	大阪府	大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター
5	山口県	山口大学医学部附属病院
6	福岡県	産業医科大学
7	熊本県	熊本大学病院
8	沖縄県	琉球大学病院

令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

令和7年度当初予算額 39百万円 (38百万円) ※ ()内は前年度当初予算額

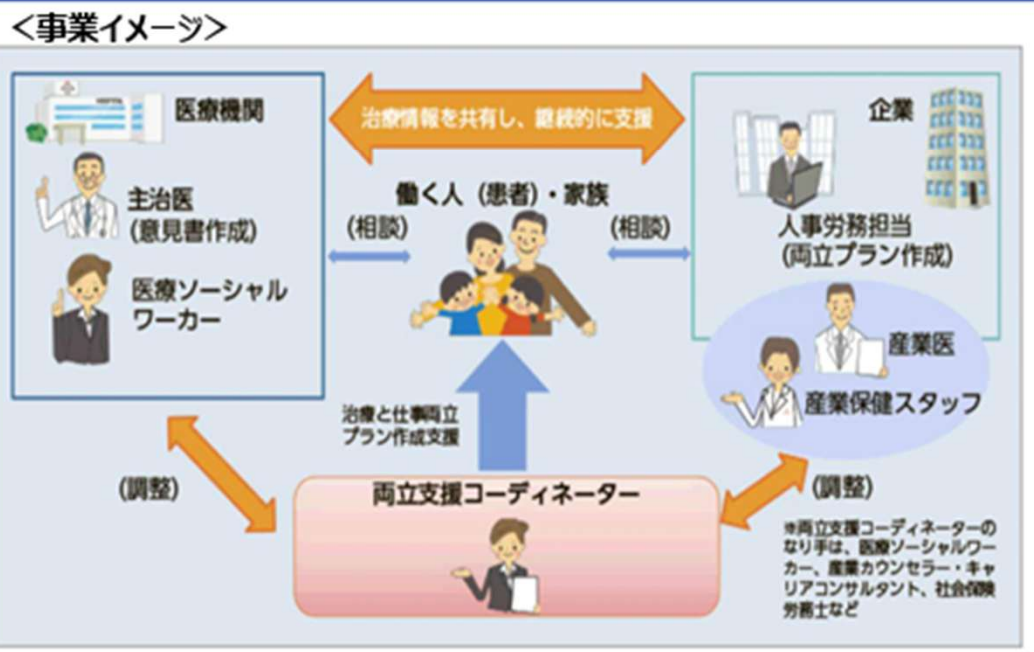
1 事業の目的

- アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針（平成29年3月21日厚生労働省告示第76号、令和4年3月一部改正）において、国は、アレルギー疾患を有する者が適切なアレルギー疾患医療を受けながら、本人又はその家族が就労を維持できるような環境の整備等に関する施策について各事業主団体に対し、周知を図ることとされている。
- 厚生労働科学研究において、免疫アレルギー疾患のために、就職に不利になった方、仕事量や内容が制限された方、仕事のために通院が制限された結果、症状が悪化した方や子どものアレルギー疾患の治療や通院等のために仕事が制限されている方が一定数いるという問題点が明らかになっており、免疫アレルギー疾患患者又はその家族が安心して治療と仕事を両立できることを目的とする。

2 事業の概要・スキーム

<事業の概要>

- 免疫アレルギー疾患患者又はその家族が安心して仕事の継続や復職に臨めるよう、都道府県アレルギー疾患医療拠点病院等に「両立支援コーディネーター」を配置する。
- 都道府県アレルギー疾患医療拠点病院等において、両立支援コーディネーターが中心となり、免疫アレルギー疾患患者又はその家族の個々の治療、生活、勤務状況等に応じた、治療と仕事の両立に係る計画を立て、支援を行うモデル事業を実施する。



3 実施主体等

- ◆ 実施主体：都道府県アレルギー疾患医療拠点病院等
- ◆ 補助率：定額（10/10相当）
- ◆ 箇所数：8箇所
- ◆ 1箇所あたり：490万円
- ◆ 令和6年度採択数：8拠点病院

令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

● 令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

アレルギー治療と学業・仕事の両立を支援

藤田医科大学アレルギーセンターは、アレルギーの症状が日常生活や仕事に支障をきたしている方へ、アレルギー治療と学業・仕事の両立支援を行っています。患者さん一人ひとりの症状や状況に合わせて、専門医と支援チームが治療と両立の両方をサポートいたします。

両立支援の実績 (抜粋)

Case 1 症状が重なり、アレルギー治療が必要。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。

Case 2 症状が重なり、アレルギー治療が必要。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。

Case 3 アレルギー治療の副作用が重なり、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。

Case 4 アレルギー治療の副作用が重なり、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。

病院と学校・職場をつなぐサポートネットワーク

主治医 ↔ 藤田医科大学ばんだね病院 ↔ 学校・企業

治療と就労・就学のお悩みの方は、ばんだね病院の診療科を窓口としてご相談ください。お問い合わせ先はアレルギーセンターホームページ（右下のQRコード）からお問い合わせいただけます。

藤田医科大学 総合アレルギーセンター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GENERAL ALLERGY CENTER
〒414-8509 静岡県静岡市清水区藤田1-9-1 藤田医科大学ばんだね病院 TEL:052-321-8171 FAX:052-322-4734

● 令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

アレルギー治療と学業・仕事の両立を支援

藤田医科大学アレルギーセンターは、アレルギーの症状が日常生活や仕事に支障をきたしている方へ、アレルギー治療と学業・仕事の両立支援を行っています。患者さん一人ひとりの症状や状況に合わせて、専門医と支援チームが治療と両立の両方をサポートいたします。

両立支援の実績 (抜粋)

Case 1 症状が重なり、アレルギー治療が必要。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。

Case 2 症状が重なり、アレルギー治療が必要。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。

Case 3 アレルギー治療の副作用が重なり、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。

Case 4 アレルギー治療の副作用が重なり、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。

病院と学校・職場をつなぐサポートネットワーク

主治医 ↔ 藤田医科大学ばんだね病院 ↔ 学校・企業

治療と就労・就学のお悩みの方は、ばんだね病院の診療科を窓口としてご相談ください。お問い合わせ先はアレルギーセンターホームページ（右下のQRコード）からお問い合わせいただけます。

藤田医科大学 総合アレルギーセンター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GENERAL ALLERGY CENTER
〒414-8509 静岡県静岡市清水区藤田1-9-1 藤田医科大学ばんだね病院 TEL:052-321-8171 FAX:052-322-4734

アレルギー疾患

● 令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

患者さんへ 関節リウマチの治療と就労の両立をサポートします

関節リウマチの症状が重なり、仕事や学業に支障をきたしている方へ、治療と就労・就学の両立支援を行っています。患者さん一人ひとりの症状や状況に合わせて、専門医と支援チームが治療と両立の両方をサポートいたします。

両立支援の実績 (抜粋)

Case 1 症状が重なり、関節リウマチの治療が必要。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。

Case 2 症状が重なり、関節リウマチの治療が必要。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。

Case 3 関節リウマチの治療の副作用が重なり、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。

Case 4 関節リウマチの治療の副作用が重なり、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。

病院と学校・職場をつなぐサポートネットワーク

主治医 ↔ 藤田医科大学ばんだね病院 ↔ 学校・企業

治療と就労・就学のお悩みの方は、ばんだね病院の診療科を窓口としてご相談ください。お問い合わせ先はアレルギーセンターホームページ（右下のQRコード）からお問い合わせいただけます。

藤田医科大学 総合アレルギーセンター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GENERAL ALLERGY CENTER
〒414-8509 静岡県静岡市清水区藤田1-9-1 藤田医科大学ばんだね病院 TEL:052-321-8171 FAX:052-322-4734

● 令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

患者さんへ 関節リウマチの治療と就労の両立をサポートします

関節リウマチの症状が重なり、仕事や学業に支障をきたしている方へ、治療と就労・就学の両立支援を行っています。患者さん一人ひとりの症状や状況に合わせて、専門医と支援チームが治療と両立の両方をサポートいたします。

両立支援の実績 (抜粋)

Case 1 症状が重なり、関節リウマチの治療が必要。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。

Case 2 症状が重なり、関節リウマチの治療が必要。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。治療が完了するまで、仕事を休む必要がある。治療が完了すると、仕事を再開できる。

Case 3 関節リウマチの治療の副作用が重なり、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。

Case 4 関節リウマチの治療の副作用が重なり、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。副作用が軽くなるまで、仕事を休む必要がある。副作用が軽くなると、仕事を再開できる。

病院と学校・職場をつなぐサポートネットワーク

主治医 ↔ 藤田医科大学ばんだね病院 ↔ 学校・企業

治療と就労・就学のお悩みの方は、ばんだね病院の診療科を窓口としてご相談ください。お問い合わせ先はアレルギーセンターホームページ（右下のQRコード）からお問い合わせいただけます。

藤田医科大学 総合アレルギーセンター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GENERAL ALLERGY CENTER
〒414-8509 静岡県静岡市清水区藤田1-9-1 藤田医科大学ばんだね病院 TEL:052-321-8171 FAX:052-322-4734

リウマチ疾患

患者用チラシ

医療機関用チラシ

藤田医科大学 総合アレルギーセンター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GENERAL ALLERGY CENTER

ご利用の際は藤田医科大学ばんだね病院まで
TEL:052-321-8171 (診療受付は11:00まで)

治療と仕事の両立支援

治療と仕事の両立支援

TOP

TOP 両立支援の申込 手続き

治療と仕事の両立支援

● 令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

免疫（リウマチ）、アレルギー疾患患者さんが適切な治療を受けながら仕事・学業を続けるための支援システムを構築し、2023年10月から運用を開始しました。

アレルギー疾患の治療を受けながら安心して仕事や学業に臨める環境を整備を目的に、厚生労働省「免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業推進計画」を公表。令和5年度に引き続き、令和6年度、令和7年度も両立センターがモデル事業に支援されました。

当センターが構築した両立支援システムでは、ばんだね病院の「治療と就労・就学支援チーム」が患者さん一人ひとりの症状や状況を総合的に考慮し、治療・就労支援を提案し、患者さんのお悩みや課題、企業との連携、治療と就労・就学の両立を支援します。患者さんが治療・就労を続けるための必要な支援をチームでサポートします。

説明動画

2023.11.13 [FUJITA NEWS WEB] 総合アレルギーセンター

相談窓口

アレルギー疾患の治療と就労・就学の両立でお悩みのご相談にお答えいたします。

- アレルギー疾患の治療と就労・就学の両立についての質問に無料でお答えいたします。
- アレルギー疾患全般に関する心配事や悩み事についてはこちらのページへ
- 患者さんやそのご家族だけでなく、医療従事者、教育関係者、企業の皆さまなどアレルギーに携わる様々な職種の方からの相談にも対応いたします。どうぞお気軽にご相談ください。

両立支援の申込

TOP 両立支援の申込 手続き

両立支援の申込 手続き

● 令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

当センターでは、藤田医科大学ばんだね病院の受診を受け、関節リウマチや様々なアレルギー疾患でお悩みの患者本人やご家族、勤務先の担当などからの相談を受け付けております。

相談内容に応じて、当院の様々な専門性を有する両立支援コーディネーター（医師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士など）や連携先の学際型保健総合支援センターの両立支援コーディネーター（保健師、社会保険労務士、カウンセラーなど）が支援いたします。

【両立支援のお申込み】

- お電話 052-321-8171 (受付時間/平日9時～17時) 「両立支援の相談を希望」とお伝えください
- インターネット お申込 Google フォーム (24時間受付)

※お申し込み後、2～3日以内にご返信いたします。

【相談料】 無料

両立支援の申込方法

当院を受診中ですか？

- 当院を受診中
 - 当院の各診療科を受診した際に、ご相談ください。
 - お電話から 毎日の診療/平日9時～17時
 - 当院の代表番号 052-321-8171 「両立支援の相談を希望」とお伝えください。
 - インターネットから 24時間受付
 - 専用フォームに入力しお申し込みください。
- 当院を受診していない
 - 2～3日以内にメールもしくはお電話でご返信。

両立支援相談日を調整

ご希望にあつた両立支援コーディネーター（医師の医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、学際型保健総合支援センターの保健師、社労士など）がご都合にあわせてお電話や対面で支援します。

患者向け・連携病院向けにチラシ作成（アレルギー疾患・リウマチ疾患）、センターHPに紹介動画、相談窓口等のページを新設し、両立支援の実施をアピール

令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業



知多市学校保健会研究総会
@メディアス体育館ちた
2026.2.5(木)



広島県盈進中学高等学校
学生インタビュー
2025.10.20



追手門大学
学生インタビュー
2025.8.20


保育園・学校関係者(養護教諭、学校医、教育委員等)に向けた講演活動および学生のインタビューへの対応を継続的に実施し、アレルギーに関する知識の普及・啓発ならびに治療と就学の両立支援の重要性について周知を行った。

令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

令和6年度免疫アレルギー疾患患者に係る
治療と仕事の両立支援モデル事業

アレルギー疾患の 治療と就学・就労の 両立支援実施の手引き



 **藤田医科大学 総合アレルギーセンター**
(藤田医科大学ばんだね病院内)
愛知県アレルギー疾患医療拠点病院

取り組み内容や体制構築方法などをまとめ
医療機関や患者向けに手引きを作成

アレルギーポータル(日本アレルギー学会と厚生労働
省が共同で作成したウェブサイト)に掲載されました

アレルギーポータル




- 小児のぜん息(11)
- 成人のぜん息(8)
- 蕁麻疹(2)
- アトピー性皮膚炎(13)
- アナフィラキシー(2)
- 花粉症(5)
- 食物アレルギー(17)
- アレルギー性結膜炎(1)
- その他(20)
- 重症薬疹(1)
- ラテックスアレルギー(2)
- 接触皮膚炎(2)
- アレルギー性鼻炎(3)



金属アレルギー診療と管理の手引き2025
令和4-6年度厚生労働科学研究費補助金
研究代表者 矢上品子

[詳しくはこちら](#)



食物蛋白誘発胃腸症・嘔吐発作時のアクションプラン
国立成育医療研究センター
アレルギーセンター

[詳しくはこちら](#)



アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立支援実施の手引き
令和6年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業
藤田医科大学総合アレルギーセンター

[詳しくはこちら](#)

令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

あいち産保センターの 治療と仕事の両立支援*相談窓口

相談窓口	相談日・時間 (予約制・無料・90分/1人)	連絡先
愛知県がんセンター	随時(要予約) *ミニセミナー月1回開催 11:00-11:30 (開催日は院内窓口で確認)	*地域医療連携・相談支援センター (外来棟2階) (平日 9:00~17:00) 052-762-6111(代表)
日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院	随時 (要予約)	*相談支援センター1階 (平日 8:50~17:20) 052-485-3503(直通)
日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院	随時 (要予約)	*患者支援センター(第1病棟1階) (平日 8:30~16:30) 052-832-1121(代表)
名古屋大学医学部附属病院	随時 (要予約)	*地域連携・患者相談センター (平日 8:30~17:00) 052-744-2663
名古屋市立大学病院	随時 (要予約)	*がん相談支援センター (平日 9:00~16:00) 052-851-5511(代表)
名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター	随時 (要予約)	*がん相談支援センター (平日 9:00~12:00 13:00~16:00) 052-726-3122(直通)
知多半島総合医療センター (旧 半田市立半田病院)	随時 (要予約)	*がん相談支援センター (平日 9:00~12:00 13:00~16:00) 0569-89-0515(代表)
愛知医科大学病院	随時 (要予約)	*医療福祉相談室(中央棟1F14番) (平日 9:00~12:00 13:00~17:00) 0561-61-1878(直通)
安城更生病院	随時 (要予約)	*がん相談支援センター (平日 8:30~17:00) 0566-75-2111(代表)
藤田医科大学ばんだね病院 藤田医科大学総合アレルギーセンター	随時 (要予約)	*免疫(リウマチ)・アレルギー疾患相談 支援センター (平日 9:00~17:00) 052-321-8171(代表)
名古屋掖済会病院	随時 (要予約)	*地域医療支援センター窓口 (平日 8:30~16:50) 052-652-7711

労災病院両立相談窓口

中部労災病院	随時 (要予約、社労士相談は月一回)	*メディカルサポートセンター (平日 8:15~17:00) 052-652-5511(代表)
旭労災病院	随時 (要予約)	*患者サポートセンター (平日 8:15~17:00) 0561-54-3131(代表)

働く人のこころとからだの健康をサポートします

独立行政法人 労働者健康安全機構 〒461-0005 名古屋市東区東桜1-13-3 NHK放送ビル2階
愛知産業保健総合支援センター TEL (052) 950-5375 FAX (052) 950-5377



愛知産業保健総合支援センター(厚生労働省所管の公的機関、労働者の健康サポートを無料で行っている機関)と協定を結び、協力体制を構築



検査や治療で仕事を休まなくちゃいけない

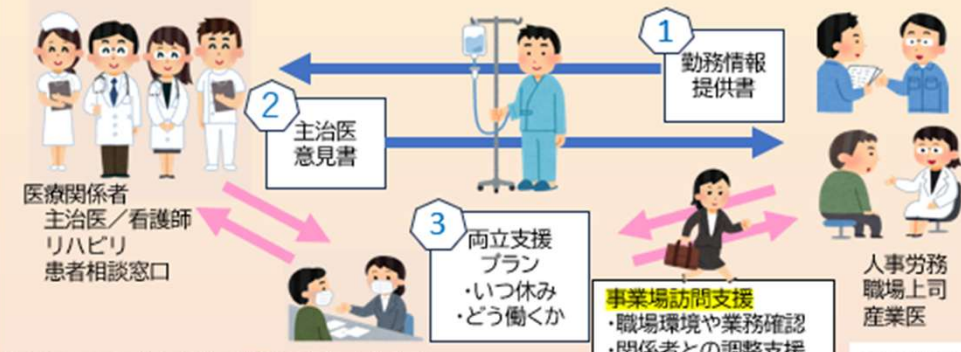
これまで通りには働けないかもでも仕事は続けたい

自分の病気のことで会社の誰と、どんな風に相談したらいいのかな

【保健師・社労士・心理職との相談ができること】

- 課題の整理
 - ・本人の体調、体力や心身機能の確認
 - ・安心安全に通勤や就労が可能かの確認
 - ・社内ルールの確認(就業規則:休職/復職、退職)
- 会社関係者との相談・連絡・調整のしかたについて
- 両立支援の進め方の助言
- 社会保障制度活用について情報提供

愛知産業保健総合支援センター
副所長 高柳知行様
保健師 早川明子様



働く人のこころとからだの健康をサポートします

独立行政法人 労働者健康安全機構 〒461-0005 名古屋市東区東桜1-13-3 NHK放送ビル2階
愛知産業保健総合支援センター TEL (052) 950-5375 FAX (052) 950-5377



令和7年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

名古屋大学医学部附属病院 整形外科 主催 リウマチ療養相談会にて当院の両立支援活動を広報

開催場所:名古屋大学医学部附属病院
開催日時:2025年11月13日(木)14時~16時
参加者数:約20名(例年:約50名)
備考:コロナ後6年ぶりの対面開催

リウマチ療養相談会開催



2025年
11月13日(木) 14:00-16:00
名古屋大学医学部附属病院 医系1号館 地下会議室

講演1
「元気に歩き続けるために
～口コミと健康のお話～」
講師:山本 浩人(名古屋大学医学部附属病院 整形外科)

講演2
「食事と運動で支えるリウマチ治療」
講師:齊藤 祐樹(名古屋大学医学部附属病院 整形外科)

講演終了後 質疑応答

【会場アクセス】



参加費無料 事前予約必要なし 主催:名古屋大学医学部附属病院 整形外科

1. 活動内容

- 相談会の最後に5分程度お時間をいただき、当センターの「治療と仕事の両立支援」の取り組みと、支援のお申込み方法をご案内
- 講演ではリウマチ疾患の基本的な診断や治療について学習

2. 参加者の状況・印象

- 参加者からの質問より、アレルギー同様に、長期化しているご自身やご家族の症状・治療法への関心・お悩みが多い
- 一般の方にとって医療者への説明は難しく、丁寧に整理して伝える「橋渡し役」としての支援の必要性を実感

3. 医療者・患者会からの情報

【リウマチ専門医の話】

高齢の患者が多く働く必要のない方が多い一方、50代女性など就労中の方もおり、支援の必要性はあるとのこと

【来場された患者さんの話】

- 女性の方(50代くらい)15年以上就労先には病気のことは伝えず、服薬しながら我慢して就労継続している。
- 女性の方(70代くらい)学校の養護教諭として就労されていたが、人命救助をする際に膝をつく動作などができない状態になったら、仕事を辞めようと自身で決めていたとのこと(現在は高齢の為ご退職済)

※ 名古屋大学整形外科外来に両立支援の手引き冊子と案内チラシを設置ご了承いただく

※ 12月7日開催の患者会にて両立支援の手引き冊子と案内チラシを配布依頼済

